

5月14日（金） 午後の部 （全面オンライン形式）

分科会A

13:30-14:10 上嶋悟史（宮内庁三の丸尚蔵館）

東寺所蔵 元禄本「現図曼荼羅」制作の史的意義 一仁和寺における開眼供養を中心として一

14:10-14:50 佐藤優（大阪大学）

金光明最勝王経金字宝塔曼荼羅図の再検討

14:50-15:30 廣谷妃夏（東京国立博物館）

法隆寺伝来「蜀江錦」〈赤地獅子鳳凰円文錦〉及び〈赤地小格子連珠花文錦〉の制作年代の再検討

15:45-16:25 三宅良宜（奈良大学）

長谷川等伯と法眼落款 一智積院蔵「十六羅漢図屏風」を中心に一

16:25-17:05 多賀緑（京都工芸繊維大学）

「歴史画」としての清少納言図一「香炉峰の雪」の章段の絵画化をめぐって一

17:05-17:45 石沢俊（神戸市立博物館）

川崎正蔵と川崎美術館一第13回展覧からみた活動と顕彰一

分科会B

13:30-14:10 三井麻央（岡山大学）

ベルリン新博物館「エジプトの中庭」および「ローマの間」装飾壁画の造形的再解釈

14:10-14:50 芹澤なみき（愛知県美術館）

フラ・アンジェリコ《サン・マルコ祭壇画》一主祭壇画としての機能に関する一考察一

14:50-15:30 吉岡萌（慶應義塾大学）

ジロデ＝トリオン《エンデュミオンの眠り》一独創的な月光表現と画面に描かれた文字について一

15:45-16:25 山柁あおい（国立西洋美術館）

ギュスターヴ・クールベ「狩人のための連作」解釈の試み

16:25-17:05 中村みのり（学習院大学）

19世紀フランスにおける浮世絵受容一『芸術の日本』の表紙を中心に一

17:05-17:45 杉本渚（慶應義塾大学）

ジョルジュ・ブラックによるヘシオドス『神統記』挿絵版画一大戦間期におけるキュビズムと「秩序への回帰」一

5月15日（土） 午前の部（全面オンライン形式）

分科会C

9:20-10:00 大沼陽太郎（東北大学）

日本における天王像「帯喰」の意味―「河伯面」に着目して―

10:00-10:40 島田和（慶應義塾大学）

京都府金剛院執金剛神・深沙大將像の成立―造像背景の再検討を中心に―

10:40-11:20 菅野龍磨（上原美術館）

東京国立博物館所蔵「厨子入愛染明王像」の図像解釈と制作背景

11:20-12:00 塚原晃（神戸市立博物館）

放蕩息子の散財 ―長崎版画「阿蘭陀人康楽之図」とイギリス製銅版画

午後の部（全面オンライン形式）

分科会E

14:00-17:30 シンポジウム

「修理と美術史学 残すもの、除くもの、補うもの」

※詳細は別紙をご参照ください。

分科会D

10:00-10:40 中村融子（京都大学）

アフリカ現代美術第3世代試論―キング・フンデックピンクと陶芸を
起点に―

10:40-11:20 岩間美佳（神戸大学）

恩地孝四郎《キリストとマリア》に関する―考察―キリスト教モチーフ
の使用と表現をめぐって―

5月16日（日）（全面オンライン形式）

分科会F

10:00-10:40 施園園（神戸大学）

熾盛光仏画像の形成における他画像の借用について

10:40-11:20 松出洋子（佛教大学）

法金剛院の阿弥陀如来像における定朝様の影響の再評価について

11:20-12:00 盧ユニア（ソウル大学日本研究所）

明治期輸出陶磁に見る「薩摩現象」と変容—沈壽官、錦光山宗兵衛、宮川香山を中心に—

12:00-12:40 今井祐子（福井大学）

セーヴル磁器における青磁色の表現 —中国磁器との関わりを中心に—

12:40-13:20 越川倫明（東京藝術大学）

イラクリオン歴史博物館所蔵、エル・グレコの《キリストの洗礼》：制作年代に関する再検討

13:20-14:00 吉村典子（宮城学院女子大学）

塩見允枝子《空間的な詩》におけるリチャード・ハミルトン —「影のイヴェント」のレポートを通して

14:00- 総会・美術史学会賞授賞式